

## 〔研究ノート〕

## 北京オリンピック開会式テレビ中継の日中比較(上)

増田 幸子\*

本稿では、2008年第29回北京オリンピック開会式中継録画（日本のNHKと中国のCCTV）を素材にして、日本・中国の2カ国のテレビ中継の比較分析を試みている。テレビを介して世界中に中継される現代のオリンピックは典型的なメディア・イベントである。とりわけ、近年のオリンピック開会式では伝統的な儀礼よりも開催国の文化や歴史を中心にした芸術プログラムが強調される傾向があり、メディア・イベントとしてのスペクタクル化が進んでいる。北京オリンピックの開会式もまた全世界に向けて演出／発信されたイベントであったが、CCTVはオリンピック開催のホストとしてのまなざしから、NHKは開会式を享受するという観覧のまなざしから、それぞれ中継番組を再構成し媒介していた。具体的な相違点は、テロップの多用と国家の要人や観客席のショットの挿入のような映像の違いとともに、アナウンサーを中心とした「語り」に如実に現れていた。

キーワード：北京オリンピック開会式、CCTV、NHK、中継放送、メディア・イベント、語り

## 目次

## はじめに

## 1. 芸術プログラムを中心としたオリンピック

## 開会式の変遷

## 2. 対象テキストと分析の手順

## 3. 分析

## 3. 1 微妙に異なる映像

## (1) 番組冒頭の10分間

## (2) 挿入される関係者席と観客席

## (3) テロップの意味するもの

## (以下次号)

## 3. 2 アナウンサー／コメンテーターによる語り

## (1) 語りのスタイル

## (2) 準備された語り

## (3) 語られるものと語られないもの

## まとめ

## はじめに

4年に1度開催されるオリンピックは、世界の平和や友好を理念にしたスポーツの祭典である。オリンピック開催地で直接観戦／観覧できる人々を除き、世界中の多くの人々はテレビを中心としたメディアを通して、このスポーツ・イベントを享受する。ダヤーンとカツは、テレビで放送されながら執り行われる国民／世界的な行事がテレビを媒介することによって、新しい物語のジャンルを生み人々に視聴体験を変容させるようなイベントを「メディア・イベント」と呼んだ。ダヤーンとカツによれば、オリンピックはその物語の典型的な例であるという（ダヤーン・カツ：13）。

\*立命館大学産業社会学部教授

本稿では、オリンピックの開会式がそのようなメディア・イベントの典型とであると捉え、日本と中国で放送された2008年第29回北京オリンピックの開会式のテレビ中継を素材として、開会式が日中両国のテレビ番組でどう放送されたのか、比較分析を試みる。北京オリンピックあるいは開催国の中国に関する報道については、オリンピック開催前から、日中間では餃子事件、国際的には四川大地震、聖火リレーボイコット運動にまで波紋を広げたチベット問題などがメディアで取り上げられており、オリンピックの開会式を分析するうえで、国際情勢に関わる政治的経済的あるいは歴史的な文脈からの考察は必須であると言える。しかしながら、本稿の問題関心は、政治とメディアの関係そのものではなく、だれの視点によってあるいはだれに向けて開会式がテレビ中継されたか、というメディア・イベントが醸成される際の中継番組自体の媒介のされ方にある。そこで、具体的には両国の生中継の録画をもとに、映像の相違と双方のアナウンサー／コメンテーターの語りに注目し、開会式中継番組がどのように展開されたのか、メディア・イベントの生成過程の一側面を考察してみる。

### 1. 芸術プログラムを中心とした オリンピック開会式の変遷

具体的な日本と中国のテレビ放送の比較分析の前に、歴代のオリンピック開会式がどのように変わっていったのか、開会式を分析したいいくつかの先行研究に触れつつ、その変遷を概観しておきたい。

オリンピックの開会式および閉会式は、『オリンピック憲章』の中で、IOC プロトコール・

ガイドに忠実に従って行わなければならないと明記されている。伝統的な儀式としての色合いが強かった時代を経て、情報化社会の到来とともに、今日ではオリンピックの開会式は開催国あるいは開催都市の印象を世界的に決定づける機会となっている。Goldbergによれば、世界規模のメディア・イベントとしてIOCが開会式の重要性に注目したのが1993年であり、開会式における芸術プログラムのための演出の照明が認められるなど、具体的な対応がされたという（Goldberg：176）。オリンピック憲章のプロトコールを知らないオーディエンスの私たちにとっても、現在のオリンピックの開会式の内容が、プロトコールに則った儀式（オリンピック旗の引き渡しと掲揚、オリンピック賛歌斉唱、選手宣誓、聖火点灯など）の部分と開催国・開催都市独自の芸術プログラムの2つから構成されているという認識は一般的であろう<sup>1)</sup>。

この芸術プログラムは、オリンピックが商業化された1984年ロサンゼルス大会以降、エンタテインメント業界の人物による演出という形で近年盛大に繰り広げられるようになった。1964年東京大会、1984年ロサンゼルス大会、2004年アテネ大会の3つの開会式を分析した阿部は、当時の国際情勢や社会的文化的文脈を鑑みながら、メディア・イベントとしての開会式がいかに変質していったのかを整理している。換言すれば、オリンピック史上初のカラーで衛星中継された東京大会は厳かで格調高い式典であり、音楽でアメリカの歴史をたどったロサンゼルス大会は偉大なエンタテインメント、と同時に「国際的な政治的対立ならびにそれに起因する政治によるスポーツへの干渉がいわば『自明のもの』となった状況下で、紛争や対立を巧妙に隠

蔽し、その現実を忘却させるほどの圧倒的な迫力をもって観客と視聴者に見せつけられた見せ物としての開会式」（阿部：218）であった。そして、オリンピックの過去／現在／未来を象徴する大会として位置づけられたアテネ大会では、芸術プログラムにおけるパフォーマンスがスタジアムの観衆の視線ではなくテレビカメラの視線を想定して構成されており、テレビを通して「見る」スペクタクル化が進んでいると指摘している（阿部：225-226）。

また同様に、2000年シドニー大会の開会式を分析した舩本は、各種のパフォーマンスが「一体誰のまなざしによって／誰のまなざしに向けて展開され放映されたのか」（舩本：101）を問い直し、本来オリビズムという普遍的でトランスナショナルな文化メッセージが芸術プログラムにおいてグローバルに発信されるべきであるが、実際にはローカルでナショナルな文化発信になっていたこと、そしてスタジアム上空から見て初めて理解できるパフォーマンスの構成は決してアスリートたちのためのショーではなく、テレビ視聴者とスポンサー、ひいては放送局のためのまなざしから構成された視点であることを述べ、（当時のIOCのスキャンダルがメディアで取り上げられなかったことも含めて）このようなメディアの報道姿勢がメディアと視聴者の共犯関係によって編成された構図であることを忘れてはならないと結んでいる（舩本：101-103）。

このように、今日メディアの視線から眺められることを想定したうえでメディア・イベントが構成され演じられることは極めて現代的な現象である。言い換えれば、オリンピックの開会式が儀式／セレモニーからテレビを介して世界中のオーディエンスを想定した見せ物／ショー

へと変化してきたということであろう。また、それは同時に、私たちオーディエンスが綿密に企画／演出された開会式に目を奪われている間に、スタジアムの外ではテロ対策をはじめとした監視と管理のもと、メディア・イベントのスペクタクルが展開されているということでもあるのである。シドニー大会の例で既に述べたように、芸術プログラムにおいて開催国／開催都市のローカルでナショナルな文化が強調される傾向は、1984年のロスアンゼルス大会以降、1988年のソウル大会、1992年のバルセロナ大会、1996年のアトランタ大会等に見られるが（Goldberg：178-180、舩本：94-95、阿部：235-236）、北京オリンピックの開会式もまた、このような今日のオリンピックの開会式のあり方の延長線上にあることは言うまでもない。以上のことを前提とし、かつ、オリンピックというスポーツ・イベントが政治的でナショナルな関係性から逃れられないことを了解した上で、北京オリンピックの開会式がいかにメディア・イベントとしてのスペクタクル化を拡大し、だれの視点でそれが行われているのかを検討していく。

## 2. 対象テキストと分析の手順

分析対象としたテキストは、2008年8月8日の北京オリンピックの開会式を生中継した日本のNHK（20：55～1：09）と中国のCCTV（19：48～0：08）の録画<sup>2)</sup>である。NHKとCCTVで放送された開会式の構成に沿って、全体の流れを音声（アナウンサーとコメンテーターの発言、現場音）と映像（場所、人物、出来事、テロップ）の欄を設けた記入シートに書き出し、その後、2カ国のデータを1つにまとめ

た整理シートを作成しながら、分析を試みた。

本稿は、開会式がナレーションやコメントの部分でどう放送されたかを探ることを主目的にしたため、映像の書き出しに関しては日中の違いの部分に明記することにとどめたが、音声については、両国のアナウンサーとコメンテーターの発言内容をすべて文字化した<sup>3)</sup>。また、中継録画は4時間以上（NHKが4時間14分、CCTVが4時間20分）に及ぶため、舛本の分析例に従い、開会式の内容の構成を大きく三部に分けて考えることにした。すなわち、第一部は中継開始から選手団の入場行進を迎える前までの芸術プログラム、第二部は選手団の入場行進<sup>4)</sup>、第三部は聖火点火までのプロトコールに則った開会式儀礼である。

以下では、2つのテレビ局の中継で大きく異なっている点、そして双方のテレビ局が強調していると思われる点に注目して、分析を試みている。

### 3. 分析

当然のことであるが、CCTVとNHKの開会式の中継映像は全て同じではないことをまず確認しておきたい。いわゆるオリンピックの国際映像は、北京オリンピック放送機構（BOB）によって撮影された映像が、放送権を購入している地域に配信されるということになっている。IOCマーケティング・メディア・ガイドによれば、BOBの撮影／放送チームは、半分が中国、その他は数多くの国々からのメンバーで構成されているというが、中継映像について、どのポジションの映像がどの国の撮影クルーからのものなのかまでは知ることは困難である。従って、ここでは、メディア側が何を切り取り、な

ぜその映像を放送したのかという問からアプローチするのではなく、中継された開会式のテレビ放送が結果として何をどのように伝えていたのか、日中間の相違に焦点を当てながら検証することになる。

また、オリンピックの開会式中継を各国の国内の視聴者に向けて放送することを目的としている以上、それぞれの国のアナウンサーの語りが違うのも当然である。既述のように、1984年ロサンゼルス大会を分岐点に、開催国／開催都市の伝統や文化を焦点化した芸術プログラムが開会式で大きく取り上げられるようになって以来、IOCによる正式なメディア・ガイドは組織委員会とテレビアナウンサーにとって欠かせない放送のツールになっているという（Kennet & Moragas : 267）。現在ではメディア・ガイドが放送の内容をコントロールしている部分もあり、それによってアナウンサーたちの語りが構成される一方、当日まで秘密にされる部分もある。本稿でも、予め準備された（メディア・ガイドによるか否かは不明）原稿によるアナウンサーの語りと当日証された部分での語り<sup>5)</sup>が見受けられたが、それらを過剰な語りの演出とはとらえず、準備原稿のある語り／ない語りとして扱っている。

#### 3. 1 微妙に異なる映像

表1に、中国の現地時間を基準に開会式進行プログラムの流れとCCTV・NHKの映像をまとめてみた。CCTVとNHKの欄に書き出されたものは、それぞれのテレビ局にしか現れなかった映像、つまりCCTVとNHKで違っていた映像である。Sはショットを、Tはテロップ<sup>6)</sup>を意味し、「」の中に実際にテレビ画面に現れたテロップを示している。また、CCTVの欄

表1 北京オリンピック開会式中継の流れと映像

時間	進行プログラム	CCTV	NHK
7:48	開会式直前のスタジアム周辺と会場内の様子 アナウンサー登場	アナウンサー男女の声の登場 胡国家主席とIOC会長の登場と着席 出席者共産党幹部の紹介 行進曲の演奏	アナウンサー・ゲストの登場 T「青山祐子 三宅民夫 谷村新司」
7:55	カウントダウン 国家主席とIOC会長の紹介 缶の演奏	缶演奏者が唱和する論語のT 演奏を見る関係者席、共産党幹部	T「国家スタジアム（鳥の巣）」
8:05	北京市内から鳥の巣に向かう足跡の花火 光る五輪のマーク 天女の登場	[歴史足跡] [夢幻五環] 五輪マークが浮き上がる時の挿入歌の歌詞大意T	
8:09	少女による『歌唱祖国』 国歌斉唱と国旗掲揚	T『歌唱祖国』 起立して歌う胡主席／共産党幹部 T「開幕式文芸表演 美しいオリンピック」	右手を挙げて歌う民族衣装の人々
8:13	巻物の登場 絵巻（水墨画）の完成	T「開幕式文芸表演 美しいオリンピック」 [画卷]	
8:20	孔子の弟子たちの登場 活版印刷から「和」が出現	[文字] 弟子たちが唱和する論語のT	
8:27	輿にのった人形の登場と人形劇の披露	[戯曲]	
8:30	陸と海のシルクロード 茶、陶磁器、羅針盤	[絹路]	
8:36	昆曲の演奏 伝統衣装の人々の踊り	[礼楽] 華やかな衣装の女性たちの踊り 隆起した龍の柱とその上の踊り 踊りを見る来賓席（2回）	T「ゲスト谷村新司さん アナウンサー 三宅民夫 青山祐子」
8:42	ピアノ演奏 LEDライトによる鳩	[星光]	
8:50	太極拳 自然を描く子どもたち スタジアムに帰ってきた鳥たち	[自然] 子どもたちの唱和のT	
8:58	浮かぶ宇宙飛行士 地球の登場	[夢想]	
9:01	五輪テーマソング『我和你』 世界中の子どもたちの笑顔の写真が開く 選手を迎える多民族の踊り	[我和你] 笑顔の写真の後ろの花火を見る来賓席／役員席 五輪テーマソング『我和你』の歌詞T 踊りを見る役員／関係者／幹部席	T「北京オリンピック開会式」
9:09	選手入場		
11:09	中国選手団入場～ スタジアム中央に整列するまで	中国選手団のさまざまなSと行進の様子、挑選選手と林少年、幹部／観客／役員席、中国の国旗	スタジアム中央で待つ日本人選手たち：福原愛やバレーボール／柔道の選手たち
11:25	北京五輪組織委員会劉洪会長の挨拶 IOC ジャック・ロゲ会長の挨拶	T「劉洪 北京第二十九届オリンピック運動会組織委員会主席」 拍手する胡主席、来賓席、観客席 T「雅克・夢格 国際オリンピック委員会主席」→挨拶の中国語字幕	
11:36	胡錦濤国家主席による開宣言		
11:37	オリンピック旗の入場 オリンピック賛歌の斉唱とオリンピック旗の掲揚	来賓席、ロゲIOC会長と胡主席 江沢民前主席、幹部席、温家宝首相→ 各々起立、中国国旗と五輪旗	サマランチ元IOC会長 歌う民族衣装の子供たち BS、CU
11:45	選手宣誓、審判代表宣誓 (鳩を放つ儀式)	各々の名前T	
11:48	オリジナルソングとともに会場全体で翼の動きを表現	観客席	
11:51	聖火の入場	聖火ランナーの名前T	
12:02	聖火台に点火	拍手する胡主席、中国国旗と五輪旗	
12:08	燃える聖火台の炎 花火に包まれる北京市、天安門付近 スタジアム内から見える聖火台	T「中央電視台 CCTV」	
12:09	燃える聖火台の炎 鳥の巣周辺の映像 スタジアム内から見える聖火台		T「ゲスト谷村新司さん アナウンサー 三宅民夫 青山祐子」 T「北京オリンピック開会式」



で、[ ]で示されているのは、芸術プログラムの各々の演目が始まる時に、巻物の形をして現れた演目テーマを指している。また孔子の弟子たちが唱和する論語の一節などの長いテロップについては表2にまとめ、別に詳述する。

中継映像の日中の相違は、放送時間の違いによって現れる場合と同じ中継時間にそれぞれ違った映像が挿入される場合とがある。双方の中継放送はCCTVがNHKより7分早く始まり、1分早く終わっているため、前者については中継開始から開会式プログラムの開始（カウントダウン）までの冒頭約10分間と終りの1分間に違いが生じている。また、後者の場合、日中両国の相違が明らかなのは大きく2点である。1つはCCTVの映像には中国政府の要人やオリンピックに関わる公的な人物、そして観客席のショットが頻繁に挿入されているという点、もう1つはテロップの使い方が顕著に違うという点である。以下では、具体例を挙げて説明していく。

### (1) 番組冒頭の10分間

先述したように、テレビ放送はCCTVがNHKより7分早く始まるが、中継開始からカウントダウンまでの冒頭約10分の間に、両国の違いが明らかであり、これはオリンピックの開会式を生放送するにあたっての双方のテレビ局のスタンスを示していると考えられる。

CCTVでは、きれいにライトアップされた開会式直前のスタジアム全景を外から映し、そしてカメラはスタジアム内へと移る。CCTV男女のアナウンサーが中継放送開始を告げて（アナウンサー自身の映像はテレビ画面に映らない）、開会式前の期待感と興奮を語った後、楽団による行進曲の演奏が開始され、それとともに、胡

錦濤国家主席とジャック・ロゲIOC会長が貴賓席に入ってくる様子が映される。

男性アナウンサーが開会式に出席する中国政府の指導者たち33名の名前を読み上げている間に、観衆に手を振る胡主席の様子や整列した白い制服姿の楽団やドラム・トランペット・ホルンなどの楽器の演奏の様子がクローズアップされる。楽団の演奏が止むと、拍手と歓声が起こり、しばらく外からのスタジアム全景と色とりどりにライトアップされたスタジアム周辺の景色がゆっくりと俯瞰される（この時にアナウンサーの語りはない）。再びスタジアム内をとらえたカメラは、貴賓席のサマランチ前IOC会長・江沢民前主席とその夫人、そして一般観客席の中国人観客や拍手を指導する関係者などを映し、開会式を直前に待つ人々の様子を伝えている。

一方、CCTVより7分遅れて放送を開始したNHKでは、オリンピックテーマソング『ギフト』をBGMに、白い画面に次々と咲く花とアスリートたちの姿の映像が映し出されて、開会式の生放送番組が始まる。テレビ画面はすぐに北京の国家スタジアム（鳥の巣）からの中継に移り変わり、画面中央にテロップ「北京オリンピック開会式」が挿入される。そして、左からアナウンサーの青山祐子、三宅民夫、ゲストの谷村新司（各自の名前のテロップ付き）がミディアムショットで映し出され、挨拶をし、熱気に満ちた会場内の様子について手短かに語る。

両国のアナウンサーの語りを比較すればより明らかだが（3. 2の(1)参照）、ここには式典としての開会式を滞りなく中継しようというホストとしてのCCTVの態度と開会式の現場を体験しつつ中継にのぞもうとするNHKの態度が対照的に現れている。

## （2）挿入される関係者席と観客席

既に述べたように、NHKにはなく CCTV に登場するのは、中国政府の要人やオリンピック関係者の姿と一般観客席の映像である。政府要人や関係者の映像が現れるのは、中国の国歌斉唱と国旗掲揚、北京オリンピック組織委員会会長の挨拶、オリンピック賛歌斉唱とオリンピック旗掲揚、聖火の点火など、儀礼的なプログラムにおいてであり、一般観客席や来賓席の映像は昆曲の演奏と伝統衣装による踊り（〔礼楽〕）、花火と多民族の踊り（〔我和你〕）など、ショーとしてのエンタテインメント性のあるプログラムの時である。

たとえば、中国国歌が演奏され国旗掲揚が終了するまでの間に、NHK では国歌を歌う会場内の民族衣装の人々、歌う胡主席（CCTV よりやや長い）の姿をとらえ、中国の国旗が揚がっていく掲揚台の全景を映し、カメラは再び右手を挙げながら歌う民族衣装の人々を映すが、CCTV では貴賓席全体、歌う胡主席（NHK と同じショット）、貴賓席全体、歌う江沢民、貴賓席全体、共産党幹部席、貴賓席全体というように、政府要人・関係者・来賓を含むボックス席＝貴賓席を数回のロングショットで、主席級の重要人物はミディアムショットで映し出す。国歌が終わると、一般観客席が映り、中国国旗がクローズアップされるのは両局とも同じだが、花火が打ち上げられた後、CCTV では、はじめて「開幕式文芸表演 美しいオリンピック」のテロップ<sup>7)</sup> がテレビ画面に大きく示される。

また、北京オリンピック組織委員会の劉会長が挨拶している間も、NHK では劉会長のバストショットを中心に一般観客席と林少年<sup>8)</sup> の姿しか挿入されないが、CCTV では、一般観客席のかわりに拍手する胡主席、林少年、そして来

賓席（ロシアのプーチン大統領を中心にしているが、後ろに福田首相の姿も見える）、一般観客席、貴賓席全体と、セレモニーを見ているさまざまな人々を映し出す。

どちらも開会式儀礼でかつ中国国家と関わりの深いセレモニーに挿入された映像であり、国家要人＝中国国内の公的な視線によって見届けられ、かつ来賓や一般観客という外からの視線が注がれる中で厳かに儀式が執り行われるという構成になっている。このことは、聖火が聖火台に点火された直後の両局の映像に顕著である。すなわち、NHK において点火直後の聖火台と聖火の炎の映像が流れている間に、CCTV では拍手する胡主席の姿をとらえ、風にはためく中国の国旗とオリンピック旗（しかも、中国旗が手前で五輪旗は後ろ）をクローズアップする。これは、聖火点火後、北京オリンピックの幕開けを中国国家主席が祝福し、中国旗と五輪旗が聖火とともにこれからの熱戦を見守っていくかのように解釈もできる。

さらに、エンタテインメント性の高い芸術プログラムの演目の中に挿入される関係者席や来賓席、観客席の映像も同様である。NHK が打楽器・缶の演奏を中継している間に、CCTV は貴賓席全体、温家宝首相を含む幹部席、貴賓席全体、幹部席、貴賓席全体と繰り返し短いショットを挿入したり、NHK が龍の柱の周りで踊る民族衣装の人々をさまざまなショットでとらえている間に、CCTV はやや暗い照明の中の来賓席を映し出したりもする。ただ、興味深いのは、龍の柱のショットから来賓席にカメラが移る時スムーズでなかったり、中座して席に戻って来たばかりの来賓が来賓席に映ったり（〔礼楽〕）、芸術プログラムを「楽しんでいる」正式な映像を配信しているというのには適切とはい

えないようなカメラワークが数カ所見られたことである。先に挙げた2つのショットには、暑そうに扇子などを扇いだり、場内の演目に集中せずに隣の人と話したりする来賓の姿が映っており、ホストの中国／北京側から見れば模範とは言い難い観客例ではないかと考えられるが、観客席の映像の挿入に関してはそこまで演出や計算がされてはいなかったのだろうと判断することができる。CCTVとしては、あくまでも芸術プログラムを多くの観客が「楽しんでいる」という映像をとらえ、中継映像に挿入したかったと考えてよいだろう<sup>9)</sup>。

以上から、カメラワークに関しては生放送という性質上、演出が徹底していたとは言い切れないが、NHKがプログラムの演目そのものを中継している間にCCTVがこのような観客側のショットをいくつも挿入しているということは、盛大に繰り上げられる開会式を享受する観客像を媒介していることであり、それによって、メディア・イベントとしての開会式をさらに強化することになると考えられる。

### (3) テロップの意味するもの

ここまで、CCTVがオリンピック開催のホストの立場で、開会式の模様を広く国内外に発信しようとしている姿勢を窺うことができたが、テロップに関しては完全に中国国内の視聴者に向けたものとなっている。オリンピック放送では、自国に関わるシーンで、自国の選手にメディアが焦点化するのとは当然である。これまで見てきたように、開会式中継についても例外でなく、開催国中国と関わりの深い儀礼のシーンでは政府の要人などがスクリーンの全面に押し出されるし、詳述する紙幅がないが、中国選手団の入場行進のシーンでは中国のアスリートた

ち、関係者、選手団を歓迎する観客の様子がさまざまなアングルで頻繁に挿入されている。一方、CCTVの中で現れるテロップは、綿密に準備されたかのかどうか判断しにくいこのようなシーンの映像と比べて、中継映像の重要な演出の一部として構成されている。

NHKでは、テロップ「北京オリンピック開会式」が中継を通して3回（中継番組の始め・選手団入場前・番組終わりに）入る以外に、番組冒頭におけるアナウンサーとゲストの登場シーンで「青山祐子 三宅民夫 谷村新司」のテロップ、番組開始1時半後と番組最後に「ゲスト谷村新司さん アナウンサー三宅民夫 青山祐子」のテロップが映るだけである<sup>10)</sup>。それに対して、CCTVでは中継映像の中に多くのテロップが使用されており、それらはほぼ4つの種類に分けられる。

1つめは、NHKの「北京オリンピック開会式」に当たる放送番組のタイトルである。すでに述べたように、CCTVでは「開幕式文芸表演 美しいオリンピック」というテロップが国旗掲揚の後と巻物の登場（〔画卷〕）の前に、2回映し出される。これは、開会式の上演プログラムの全体テーマが「美しいオリンピック」であると解釈できるが、まさに「美しいオリンピック」のショーが今から始まるということを示している。

2つめは、中継画面に登場する人の名前のテロップである。上述のように、NHKではアナウンサーとゲストの姿が名前入りのテロップとともに冒頭で映り、その後も番組中盤と最後に名前のテロップのみ2回示されるが、CCTVでは中継にかかわる男女のアナウンサーはその姿をテレビ画面にさらすこともなく自らの名前も名のらない。そして彼らの名前のテロップが提



示されることもない。その存在は、中継番組の終りの部分で、両アナウンサーが「中央電視台」（中央テレビ局、すなわち CCTV の意）とそれぞれ言及することによってわずかに示されるだけで、テレビ画面には「中央電視台」のテロップが CCTV のロゴと五輪のマークとともに映し出されて、番組は終了する。またその他に、名前が中国語のテロップで示されるのは、肩書きとともに、北京五輪組織委員会会長、IOC 会長、宣誓の選手代表と審判員代表、そして聖火ランナー 8 人の名前<sup>11)</sup>である。ただ、北京五輪組織委員会会長と IOC 会長は各自の挨拶の時に、国際映像の英語テロップが表示された後、すぐにその上に巻物が広がるようにして中国語のテロップが表示されるが、選手代表と審判員代表の宣誓時では、英語と中国語が並んで表示される。また、聖火ランナーには英語テロップは存在せず、巻物型の中国語テロップのみである。

3 種類めのテロップは、表 1 に示したように、[ ] で囲まれた芸術プログラムの 11 個の演目タイトルである。これは名前テロップよりも大きめで、たとえば、「夢想」という大きな演目タイトルの下に小さく「作曲 陳其鋼」のように、演出や演奏に関わった人の名が示されている。これらは中国語（簡体字）のテロップであり、中国語が理解できれば、一見して芸術プログラムの構成と進行が中継中にわかるようになっていく。一方、NHK の中継映像には、これに対応する英語のテロップも NHK 独自の日本語テロップも表示されない。中国語のテロップは言うまでもなく中国国内のテレビ視聴者に向けたものであり、演目タイトルと演出者の表示は開会式というイベントが演出されていることを明確に示すものである。

4 つめのテロップは、歌詞やスピーチ内容を示す比較的長いテロップである。いわゆる翻訳の字幕と呼べる種類のものは、IOC 会長による英語の挨拶が中国語で画面下に右から左へ流れるものだけで、その他は芸術プログラムの演者たちの唱和／誦読と歌の歌詞を示すテロップである。これをプログラム進行順に番号をつけて表 2 にまとめてみた。

①から⑥の長いテロップに関して、NHK ではいずれも歌詞の訳や論語の意味がテロップでは示されないが、表 2 にあるように、①④に関しては、論語からの詠唱であることや、③⑥に関しては、その歌の概要や歌詞の意味が NHK の両アナウンサーによって説明されている。⑤に関しても、アナウンサーとゲストによって子どもたちのパフォーマンスの補足説明とコメントがされているが、②に関しては全く何も言及されない。

このようなテロップは、論語や『歌唱祖国』が中国国民にとってどれほど馴染み深いものであるかという想像を差し引いても、中国国内の視聴者に向けたものであることは明白である。これらをプログラム進行に従ってその意味するところを検討してみると、開会式に集まった人々への歓迎（①）とその人々とともにオリンピック開催の喜びを分かち合う気持ち（②）がまず表現されており、テロップの示す意味内容はいずれも開催国／開催都市としてお客様を迎え入れる姿勢を強調しており、中国の国内外にアピールするものとなっている。

③と④は、中国国内の「私たち」の団結を呼びかけ、中国の偉大な思想家の言葉を引用するという点で、極めてナショナルで「中国的」なパフォーマンスのように見えるが、テロップの示す意味内容を入念に検討してみると、そのよ

表2 長いテロップの一覧

番号	進行プログラム [演目]	テロップ (日本語の大意)	テロップに対応する NHK の語り (アナウンサーの補足説明など)
①	カウントダウン 後、缶の演奏者 が唱和する論語 の一節	有朋自遠方来 不亦楽乎	青山：太鼓を叩きながら何かを叫んでいます。これは中国の有名な思想家孔子の言葉です。「友あり。遠方より来たる。また楽しからずや。」
②	[夢幻五環]で 光る五輪のマークが 浮き上がった時に流れる歌 の大意	今夜夢見 餐星變五環 万象和諧 大地平安 仙女降人間 彩雲布滿天 朋友北京來和聚 共開顏  星空が五輪になり、あらゆるものは調和がとれて、 大地は平安だ。天女が人の世界に舞い降り、色とりどりの 雲が空に満ちる。友が大勢北京に集まり楽しげに笑う。	何も言及なし
③	少女の歌った 『歌唱祖国』の 歌詞	五星紅旗迎風颯揚 勝利歌声多麼響亮 歌唱我們親愛的祖國 從今走向繁榮富強 越過高山越過平原 跨過奔騰的黃河長江 寬廣美麗的土地 是我們親愛的家鄉 我們愛和平 我們愛家鄉 我們團結友愛堅強如鋼 五星紅旗迎風颯揚 勝利歌声多麼響亮 歌唱我們親愛的祖國 從今走向繁榮富強  五星紅旗が風に翻り、勝利の歌声が高らかに響く 愛する祖國を歌い、今 繁榮富強に向かって行こう 高い山を越え平原を越え、激しい黄河長江を渡って 広くて美しい大地、それが私たちの愛する故郷 私たちは平和を愛し、故郷を愛す 私たちの團結友愛は鋼のように強いのだ 五星紅旗が風に翻り、勝利の歌声が高らかに響く 愛する祖國を歌い、今繁榮富強に向かって行こう	青山：この女の子が歌っているのは祖 國を讃える歌です。中国では小学校に あがると学ぶ歌で、だれでも知ってい ます。
④	[文字]で、竹簡 を持った孔子の 弟子たちが唱和 する論語からの さまざまな引用	「子以四教 文行忠信」 「三人行必有我師焉 擇其善者而從之 其不善者而改之」 「四海之内皆兄弟也」「朝聞道 夕死可矣」 「礼之用和為貴」「政者正也」 「学而時習之不亦悦乎」 「知之為知之 不知為不知 是知也」 「学而不厭 誨人不倦」「樂而不淫 哀而不傷」 「学而不思則罔 思而不学則殆」 「知者不惑 仁者不憂 勇者不懼」	三宅：えー、弟子たちが繰り返しているのは、孔子の教えを記録した論語の言葉なんです。
⑤	[自然]で、巻物 上に子どもたち が絵を描きなが ら誦読する文	大氣變暖了 氷川融化了 土地變小了 鳥兒不見了 我們來撫慰 我們來種草 大地變綠了 天空變藍了 春天又來了 鳥兒回來了  大氣が暖かくなり、氷河が融け、土地が小さくなり、 鳥たちを見なくなった。地球を守り、草花の種をまこう。 大地は緑に、空は青くなり、春は又やって来て、 鳥たちが戻ってきた。	青山：暖かくなり、雪が溶け鳥がい なくなった世界に、子どもたちが緑を取り 戻そうと色を塗っていきます。  谷村：今の地球温暖化への大きなメッ セージですね。
⑥	[我和你]で、 中国人歌手劉歡 が歌う五輪テー マソング『我和 你』の歌詞	我和你，心連心，同住地球村。 為夢想，千里行，相會在北京。 来吧！朋友，伸出你的手。 我和你，心連心，永遠一家人。	青山：歌っている曲はテーマソングで す。『あなたと私』というタイトル。 「あなたと私、心はひとつ。同じ地球 に住んでいる。夢を追いかけ千里を行 き北京で出会う。さあ、友よ。手を差 し伸べて。あなたと私、心はひとつ。 永久にひとつの家族。」

注：必要と思われるテロップには日本語訳を付した。

④の「」は、引用の区切りがわかりやすいように、筆者が付した。

⑥は、北京オリンピック公式サイト『我和你』の歌詞の表記に従った。

うなまなごしが巧妙に中和されている部分がある。たとえば、1950年に王莘によって作詞作曲された『歌唱祖国』は、現在の中国では掲揚前の国旗が運ばれる際に演奏され、CCTVのニュース番組のオープニング曲として使用されており、第二の国歌と呼ばれているが、文革時代には歌詞を大幅に変え革命の歌曲として愛唱されるなど、時代とともにさまざまなバージョンで歌い継がれているという<sup>12)</sup>。現在最も親しまれている標準版と比較すると、1番の歌詞「英雄的人民站起来！（人民の英雄が立ち上がった！）」が2番の歌詞「我們愛和平 我們愛家郷（私たちは平和を愛し、故郷を愛す）」に入れ替えられており、ここで歌われた歌詞の一部が革命的要素を避けて採用されていることがわかる。（後に口バク問題で注目を集めたが）愛らしい少女によって童謡のように歌われることにより、さらに文革時の愛国的な様相は弱められ、社会主義／共産主義にかかわる表象は背後に追いやられている。つまり、一見ナショナルな歌のパフォーマンスのようだが、直接の政治的イデオロギーは隠され、「平和を愛す」と歌うことで世界平和を願う「私たち」という外向きのメッセージのように転換されているとも受け取れるのである。

④の孔子の弟子たちによる論語の唱和も焦点化されている引用句を検討すると同様のことが言える。この論語の引用は、弟子たちの唱和が繰り返される間、小さな文字のテロップで、たった一度画面下を右から左へすばやく流れて終わる<sup>13)</sup>。[文字]の演目の間に、活版印刷の「和」という文字が出現することやアナウンサーの語りの内容（3. 2の(2)参照）から、ここでは特に「四海之内皆兄弟也」「礼之用和為貴」に代表される孔子の教えが強調されていると考

えてよいだろう。つまり、人と丁寧に接し礼を守っていけば、世界中の人はみな兄弟になる、礼を実現するためには和を用いることが大切だ、というような世界の人々との相互理解や世界平和への願望が強調されているのである。

そして、⑤と⑥では、「緑のオリンピック」という環境を配慮した北京オリンピックのコンセプトと「ワン・ワールド、ワン・ドリーム」という北京オリンピックのテーマがテロップに体现されていることは明らかである。

これら6つのテロップに共通しているのは、世界の人々が北京に集まり、親交を深め世界の平和を願うという、まさに世界平和や友好を謳ったオリンピックの理念に沿うものである。テロップが映像を補う付加的な情報であるという前提に立って考えれば、上述で取り上げたテロップは、入念に演出された開会式を、中国国内のテレビ視聴者に向けてわかりやすく伝えることを第一の目的としていると言える。それゆえ、中国のテレビ視聴者にのみ理解可能なこのテロップは、滞りなくオリンピック開催を迎えたことへの中国国家と北京市の威信を暗に示し、ひいては中国国民にオリンピック開催を実現させた喜びと誇りを促すことになってはいないだろうか。テロップが醸成する意味内容が中国国内外へと向かっている体裁をとりながら、実際の理解と受容が中国国内すなわち内向きに限定されていることが、それを証明していると考えられる。もし、国際映像による中継において、これらのテロップが付加する情報を理解しようとするなら、各国のアナウンサーやコメンテーターはメディア・ガイドなどを利用して、補足的な説明や解説をすることになるが、少なくとも日本の中継において、それが十分に行われているとは言い難い結果となっている。これ

は、少なくとも、中国側の発信する表向きのメッセージを理解しようとするより、演目そのものを楽しみつつ伝えようという日本/NHK側のまなざしのほうが強いからだと推察できよう。

## 注

- 1) 「シドニーオリンピック開会式のテレビ放映」を分析した舛本直文は、4時間半に及ぶ開会式を選手団の入場行進を独立させて、芸術プログラム(舛本は文化プログラムと記述)・入場行進・儀式の3部構成として扱っている。
- 2) 中国と日本には1時間の時差があるが、それぞれ現地時間で記している。CCTVは、中国国営放送の中国中央電視台(China Central Television)の略。
- 3) CCTVのアナウンサーの発言内容の翻訳に関しては、日本の大学院前期課程を修了された2名の中国語母語話者の方に御協力いただいた。この場を借りて感謝を申し上げます。
- 4) 紙幅に制限があるので、中国選手団の入場を除いて他の国の選手団入場に関するアナウンサーの語りは省略している。
- 5) たとえば、NHKでは、五輪のマークが浮き上がるシーンで「これはリハーサルでも見ませんでした」(青山)、最後の聖火ランナーに聖火が渡されたシーンで「今回どうなるのか私たちには全く知らされていません」(三宅)など、はっきりとアナウンサー自身が言及しているものもいくつか見られた。
- 6) 番組のタイトル、人名の表示、スピーチ内容の翻訳字幕など、テレビ画面上に現れた文字情報をここではまとめてテロップと呼んで処理している。本稿では、中国語のテロップに関しては、簡体字ではなく、日本で使われている漢字で表記している。
- 7) このテロップは、その後すぐ暗くなったスタジオの大スクリーンに紙漉の映像が映される前に、もう一度テレビ画面中央に映し出されている。
- 8) 四川大地震の英雄少年と両局のアナウンサーは紹介している。
- 9) 市販されている開会式の公式録画DVDでもこのシーンはカットされていない。
- 10) 途中地震速報や今後の放送変更について画面の上方に情報が流れるが、これは除外している。
- 11) 正確には、8人の聖火ランナーのうち6番目のランナー「陳中」の名前のテロップはなぜか挿入されておらず、名前のテロップは7人分である。
- 12) 百度百科  
<http://baike.baidu.com/view/252108.htm>  
(2009. 7. 21閲覧)
- 13) このテロップに限らず、テロップの役割を果たしているとは言い難いほど、これらのテロップは白抜きで小さく読みにくいものとなっている。

## 主要参考文献

- 阿部潔『スポーツの魅惑とメディアの誘惑』世界思想社、2008年。
- V. ギルギノフ・J. パリー(舛本直文訳著)『オリンピックのすべて』大修館、2008年。
- D. ダヤーン & E. カヤッツ(浅見克彦訳)『メディア・イベント』青弓社、1996年。
- 舛本直文「シドニーオリンピック開会式のテレビ放映～文化プログラムの解釈を中心に」『季刊 iichiko』No.69, 2001年, pp.90-103。
- Christopher Kennett & Miquel de Moragas, "From Athens to Peijing: The Closing Ceremony and Olympic Television Broadcast Narratives", Monroe E. Price & Danil Dayan ed., *Owning the Olympics: Narratives of the New China*, University of Michigan Press, 2008, pp.260-283.
- Goldberg David, "Olympic Ceremonies and Rites: Themes and Objectives of Ceremonies", OARe, 1997, pp.175-180.  
[http://www.ioa.org.gr/books/sessions/1997/1997\\_175.pdf](http://www.ioa.org.gr/books/sessions/1997/1997_175.pdf)
- JOC 日本オリンピック委員会公式サイト  
<https://www.joc.or.jp/joc/>
- International Olympic Committee Official website  
[http://www.olympic.org/uk/index\\_uk.asp](http://www.olympic.org/uk/index_uk.asp)
- 北京オリンピック公式サイト  
[http://en.beijing2008.cn/en\\_index.shtml](http://en.beijing2008.cn/en_index.shtml)

## A Comparative Analysis of Japanese and Chinese Television Broadcasts of the Beijing Olympics Opening Ceremony

MASUDA Sachiko \*

**Abstract:** The purpose of this paper is to examine the television programs of the 2008 Beijing Summer Olympics opening ceremony, which were broadcast in Japan on NHK (Japan Broadcasting Corporation) and in China on CCTV (Chinese Central Television), and recorded in both countries for comparative analysis. The modern Olympics are broadcast on television throughout the world as typical media events. Particularly, Olympic opening ceremonies in recent years tend to emphasize an artistic program focused on the culture and history of the host country rather than traditional Olympic rituals, and are increasingly becoming media events that are spectacularized. The opening ceremony of the Beijing Olympics was such an event, produced and transmitted globally. Both programs analyzed are mediated and reconstructed from two clear perspectives; CCTV as Olympic host and NHK as spectator enjoying the opening ceremony. Specific points of differences were apparent in the “narratives” adopted by the commentators, as well as visual differences such as the frequent use of screen captions and subtitles on CCTV, and the insertion of various shots of national VIPs and spectators in the auditorium on CCTV.

**Keywords:** Beijing Olympics opening ceremony, CCTV, NHK, broadcasting, media event, narrative

---

\* Professor, Faculty of Social Sciences, Ritsumeikan University